

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



「いつまでも 働く喜び 無事故から」

全国統一スローガン

令和3年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等を受賞して

令和3年度安全就業シルバー人材センター優秀賞を受賞されました6センター、安全就業シルバー人材センター優良賞を受賞されました13センター、安全就業優良連合賞を受賞されました1連合本部からの報告をまとめ「臨時増刊号」として掲載しましたので、皆様方のセンター及び連合本部におかれまして、ご参考にしていただき「安心・安全」のシルバー事業の発展を図ってください。

【優秀賞】

- 江別市シルバー人材センター（北海道）
- 上田地域シルバー人材センター（長野県）
- 北栄町シルバー人材センター（鳥取県）
- 鳥取市シルバー人材センター（鳥取県）
- 米子広域シルバー人材センター（鳥取県）
- 篠栗町シルバー人材センター（福岡県）

【優良賞】

- 天童市シルバー人材センター（山形県）
- 那須塩原市シルバー人材センター（栃木県）
- 東庄町シルバー人材センター（千葉県）
- 十日町地域シルバー人材センター（新潟県）
- 五泉市シルバー人材センター（新潟県）
- 能美市シルバー人材センター（石川県）
- 吉田町シルバー人材センター（静岡県）
- 東郷町シルバー人材センター（愛知県）
- 桑名市シルバー人材センター（三重県）
- 鳴門市シルバー人材センター（徳島県）
- 筑前町シルバー人材センター（福岡県）
- 大木町シルバー人材センター（福岡県）
- 天草市シルバー人材センター（熊本県）

【優良連合賞】

- 大分県シルバー人材センター連合会

1. 江別市の概要

江別市は、約 200 万人の人口を誇る道都札幌市の東側に隣接する人口約 12 万人の衛星都市です。市内にJRの駅が 5 カ所、高速道路のインターチェンジが 2 箇所あり、新千歳空港から車で 1 時間、札幌市へはJRで 19 分とアクセスに恵まれています。市内には4大学・1短大と官民の研究機関があり、文教学園都市としても高い評価を受けています。面積は、178 平方kmで東京都23区の 30%程度で、2,053haの広大な道立自然公園野幌森林公園があり、自然と都市機能が調和した都市として発展を続けており、札幌市への通勤・通学圏内として人口が最も多い都市となっています。

2. 安全就業の取組み

当センターの安全衛生就業推進への取組みは、理事 3 名、職域班長 3 名、安全就業推進員 1 名、派遣登録会員 1 名、衛生管理者 1 名、産業医 1 名、事務局長 1 名の計 11 名からなる安全衛生委員会を設置して行っています。年度当初に委員会としての事業実施計画を策定し、年 6 回から 7 回の会議を開催しています。令和2年度の事故発生状況は、傷害事故4件(労災事故 2 件を含む)、賠償事故5件の計8件で前年度より3件減少しました。

○賠償額自己負担の見直し

令和元年度に機械草刈りの飛石による低額の賠償事故が7件も発生したことから、令和2年度に委員会により賠償保険の自己負担額の見直し検討を行いました。それまでの賠償保険免責額1万円については会員とセンターが折半としていたものを、事故抑制を図ることを目的に令和3年度から全額会員負担としました。

○安全パトロールの実施

安全パトロールについては、7月には剪定・草刈りや公共施設を中心に7回、11月には冬囲いを中心に5回、委員が 2 人 1 組で実施しており、翌月にはパトロール実施結果を検証し、今後の課題等について整理しています。

○安全衛生研修会の実施

交通安全をはじめとする安全就業対策はもちろんのこと、就業には健康であることが一番という考えから高血圧症や腰痛症の予防、健康体操など幅広い内容について研修会を実施しています。

○安全標語の選定

安全標語については、12 月から会員へ募集し、3 月に選定しています。選考結果を「シルバー通信」に掲載するほか総会において表彰するなど安全意識の啓発に努めています。

○安全祈願餅つきの実施

会員の安全就業を祈願して毎年 12 月下旬に会員による餅つき大会を実施しています。ついた餅は、約 100 人の参加者全員に雑煮やきな粉餅として振舞われます。

○新型コロナ対策として全会員へマスク配布

令和元・2年度と連続して感染予防対策としてマスク配布を行うとともに具体的な感染予防に対する情報を提供しました。

○安全はすべてに優先する

安全就業には、会員一人ひとりの実践が大切になります。「安全はすべてに優先する」を合言葉に今回の受賞を契機により一層事故ゼロへ向けて会員、役職員一丸となり取り組んでまいります。



(市営駐輪場安全パトロールの様子)

《事務局長 齋木 雅信 記》

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 860 人 (男性 628 人、女性 232 人) ② 粗入会率 1.9% ③ 就業率 67.4%
- ④ 就業実人員 597 人 (請負・委任 578 人、派遣事業 96 人)
- ⑤ 就業延人員 61,421 人 (請負・委任 50,975 人、派遣事業 10,446 人)
- ⑥ 契約金額 3 億 41 万円 (請負・委任 2 億 3,828 万円、派遣事業 6,213 万円)

1 地域の概要

当センターは、長野県の北東部に位置し、戦国時代に名を馳せた真田氏の城下町として栄えた上田市を中心に、2市1町1村で地域を構成しています。四季の変化に富む山々や高原に囲まれ、中央を千曲川が地域を二分する形で東西に流れ、昼と夜の気温較差が大きい内陸性気候のため晴天に恵まれ、農業と工業を中心に商業、観光などバランスが取れた地域です。

2 安全就業の取組

当センターでは、5人の理事と8人の各地区委員、職員7人からなる安全・適正就業委員会を設置し様々な事業を展開しています。

安全は自分の問題としてとらえ、自らの責任において安全第一を心掛け、自己管理という強い意識を持ってあたなければならない。このことは、当たり前のことであり、だれもが心得ていることではありますが、事故の検証ではちょっとした準備不足、注意不足など、依然と防げる事故が多いのが現実ではないかと思えます。

事故の発生を身近に感じて「他人の事故」ではなく、自分にも起こりうる事故として認識することが、事故防止に繋がります。委員会では、日々の体験から一人ひとりが気づいたことを共有することが事故防止への近道であることから、従来の安全パトロールに加え、危険予知を取り入れた就業予定場所パトロール、過去の事故から教訓を生かすための現場検証パトロールなど、「量より質」を重視した3形態の巡視を実施しています。また、後を絶たない事故を防止する方法としてペナルティ制度の導入も検討しましたが、単に過失の度合いによって免責額を上げる以前に、防止のための対策や周知が本当にできているのか、原因の把握と当事者の自覚、会員の理解など、まずは委員会が十分な取組みをしているかの見直しから始めようとしています。

現在はコロナ禍のために思うようには進みませんが、安全就業・交通安全講習会をはじめ、各種講習会への参加を促すため、令和2年度から「ポイント制度」を新設したり、飛石軽減刃の斡旋に伴うアンケートの実施や毎年の安全標語の募集、表彰など、会員にも積極的に取り組んでいただいています。また、会員が健康を自ら意識できるよう、事務所ロビーに測定結果がプリントされる体組成計を設置し、来所の機会を活かした健康チェックの時間づくりにも力を入れています。



3 今後の安全就業について

小さな事故から死亡事故や重篤事故まで、防げることができる事故を発生させないことを目標に、加齢により身体能力、判断力などが低下することをふまえて、一人ではなく、チームとして会員が互いに目配り、気配りを行い、周りからも安全意識を促すことを進めたいと考えています。また、健康上の理由による退会が増加しているため、体力維持や健康管理など健康への取組みを強化し、皆がいつまでも元気で就業できるよう一丸となって取り組んでまいります。

《事務局長 石井 淳 記》

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 1,983人 (男性 1,292人、女性 691人) ② 粗入会率 2.9% ③ 就業率 85.1%
- ④ 就業実人員 1,688人 (請負・委任 1,688人、派遣事業 186人)
- ⑤ 就業延人員 207,326人 (請負・委任 187,459人、派遣事業 19,867人)
- ⑥ 契約金額 10億9,064万円 (請負・委任 9億7,243万円、派遣事業 1億1,821万円)

1 北栄町の概要

北栄町は、鳥取県の中央に位置し、北には日本海に面した白砂青松の景色が広がる砂丘があり、南には肥沃な黒ぼく土の丘陵地帯が広がる農業が盛んな町です。特に「大栄スイカ」や「砂丘長いも」、「砂丘らっきょう」などが有名で、人口 14,700 人の小さな農業中心の町です。また、漫画「名探偵コナン」の作者 青山剛昌さんの出身地であることから、「コナンに会える町」とも呼ばれています。

2 安全就業の取り組みについて

今年度、全シ協より安全就業・優秀賞を受賞しました北栄町シルバー人材センターです。日頃からの安全就業に向けた取り組みが評価されたことと感じており、今後も会員の健康と安全就業への取り組みを強化して実施していきたいと考えています。

以下、当シルバーの主な安全就業の取り組みを紹介します。

(1) 安全・適正就業委員会の活動

当シルバーは、会員の健康と就業上の安全・適正就業に関する事項を検討し、その対策を推進するため、「安全・適正就業委員会」を設置しています。この委員会は、理事 3 人と会員 6 人、職員 1 人で構成される 10 人の委員が現場に出向いて就業時の安全対策の確認を行い「当シルバー安全・適正就業推進基本計画」に沿い、徹底して指導を行っています。

(2) 安全講習会の開催

毎年 6 月、草刈り、剪定講習会を開催しています。樹木など機械を使う作業については、講師を招いて安全講習を実施。機械の取り扱い方や地形の異なる場所での作業や機械の操作方法の実演を交えて実施しています。また飛び石事故については、注意を怠ると事故になるという認識をもつよう周知徹底を図っています。

(3) 安全パトロールの実施

毎年 7 月から 11 月にかけて安全パトロールを実施。安全・適正就業委員会のメンバーで各班の作業の様子を観察し、一方的な指導ではなく、会員の意見も聞きながら方向性を示すことができ、今後の作業に役立ちました。

(4) 「会員だより」による安全就業の啓発

毎月発行している「シルバー会員だより」で安全就業に関することや事故の事例と、その対策などを周知し安全意識の啓発を行っています。



安全・適正就業委員による安全パトロール

3 今後に向けて

「安全はすべてに優先する」をモットー「事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな」を呼びかけ、安全就業対策を図りながら、事故ゼロを目指して取り組んでいきます。

《事務局長 杉川 弘行 記》

センターの概要 (令和 2 年度)

- ① 会員数 155 人 (男性 96 人、女性 59 人)
- ② 粗入会率 2.5%
- ③ 就業率 88.4%
- ④ 就業実人員 137 人 (請負・委任 137 人、派遣事業 20 人)
- ⑤ 就業延人員 12,430 人 (請負・委任 11,587 人、派遣事業 843 人)
- ⑥ 契約金額 5,041 万円 (請負・委任 4,620 万円、派遣事業 421 万円)

1 鳥取市の概要

鳥取市は、鳥取県の北東部に位置し、山陰東部圏域の政治、経済、文化の中心的役割を担う人口約18万5千人の中核市です。

山陰海岸ジオパークの一部である鳥取砂丘の雄大な「景観」、鳥取城跡をはじめとする「歴史・文化」、松葉ガニを代表とする多様な「食」、世界で唯一砂の彫刻を常設展示する「鳥取砂丘 砂の美術館」を楽しむことができます。

近年は、無料の高速道路網の整備も進み、豊かな自然環境の中に経済・交通・教育・医療等の都市機能を有し、暮らしやすい都市として発展しています。

2 安全就業の取り組み

本センターは、「安全・適正就業部会」を設置し、会員の安全・適正就業に関する事項を検討し、その対策を推進しています。

(1) 安全意識の啓発

年2回発行する会報「シルバーとっとり」に安全就業や熱中症対策の啓発記事を掲載するとともに、職群班会議において、安全対策の重要性について周知し、事故防止に努めています。

(2) 「会員連絡網」の活用

平成26年度に比較的事故が発生しやすい剪定作業や草刈り・除草作業に就く会員に対して、事務局から各リーダーに、各リーダーからそのグループの会員に情報を伝達する会員連絡網を整備しました。

緊急度の高い情報を速やかに伝えるシステムを構築したことにより、傷害及び賠償事故ともに大きな事故を防ぐことができます。

(3) 安全パトロールの実施

5月、6月、8月から11月まで月2回、安全・適正就業部会が安全パトロールを実施しています。

また、安全・適正就業強化月間の7月は、週1回理事による安全パトロールを実施して安全就業に努めています。

(4) 安全講習会の実施

作業の基本動作や安全対策に必要な知識を習得するため、刈払機取扱講習会や剪定講習会を実施しています。

令和2年度は、自動車及び自転車安全運転講習会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。

(5) 安全大会

平成13年度から毎年、安全・適正就業に関する知識を習得するため、「安全大会」を開催してきましたが、令和2年度に開催予定していた記念すべき第20回安全大会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止しました。



安全パトロール(鳥取駅前除草作業)

3 事故ゼロを目指して

本センターは、社団法人として昭和56年7月に設立され、令和3年度は設立40年の節目の年を迎えます。

これを契機に、今まで以上に事故防止対策に組織を上げて取り組んでいきます。

《専務理事兼事務局長 山本 雅宏 記》

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 699人 (男性 447人、女性 252人) ② 粗入会率 1.0%
- ③ 就業率 91.3%
- ④ 就業実人員 638人 (請負・委任 594人、派遣事業 106人)
- ⑤ 就業延人員 62,968人 (請負・委任 53,757人、派遣事業 9,211人)
- ⑥ 契約金額 2億9,576万円 (請負・委任 2億4,820万円、派遣事業 4,756万円)

1 概要

公益社団法人米子広域シルバー人材センターは、昭和58年1月に米子市シルバー人材センターとして設立し、平成2年に隣接する日吉津村を含めた広域シルバー人材センターとなり現在に至っています。米子市と日吉津村は、日本海と中海、そして中国地方最高峰の大山に囲まれた自然豊かなまちです。

2 安全就業の取組

(1) 会員の安全遵守

会員は普段から自らの健康保持に努め、常に「安全心得十訓」をはじめ「安全就業基準」(作業別安全就業基準)を遵守し、安全就業活動に努めた。また、就業途上等における交通安全ルールを守り、事故発生等の防止に努めた。

(2) 安全就業の確認

- ① 作業を開始するときは、安全就業の確保が可能かどうか作業内容の確認に努め、必要により作業手順の変更等を発注者と協議した。
- ② 安全・適正就業推進員等は会員の安全就業状況を点検するため、重点的に巡回パトロールを実施し、適切な指導を行い、事故の未然防止に努めた。
- ③ 会員個人が所有する機材・道具やセンターが所有する機械器具の安全点検を行い、不良箇所を発見したときは、直ちに事務局に通知し適切な処理を行った。
- ④ 作業開始前には、会員一同が作業現場・内容を確認し情報を共有した上で安全就業を徹底した。
- ⑤ “ヒヤリ・ハット”(“ヒヤリとした”“ハットした”事柄と要因)情報を共有活用し、日常の安全対策に繋がった。

(3) 「安全就業強化月間」の活動

会員は就業安全心得「会員のしおり」により常に安全就業に努め、例年7月の「安全就業推進月間」には、重点的に安全就業意識の高揚に努めた。また、月間においては担当理事等による就業現場のパトロールを実施し、安全就業現場の確認と適切な指導、意見交換等を実施し、常時事故防止を徹底した。

(4) 安全講習会・研修会の実施

独自の安全就業講習会(技能の習得のものも含め)を実施し、会員就業の事故防止及び安全就業を促進した。また、地元警察署等に依頼し担当職員による交通安全研修会を実施し、さらに交通安全に関する地域における講習会・研修会に積極的に参加し、交通ルールの自己啓発に努め、交通事故防止の徹底を図る。同時に、近年の安全就業標語の取り組みなどを学び、関係者の意識の高揚を促進した。



(5) 健康の保持

入会会員に対し自己診断による「健康チェック」の提出を義務づけ、常時心身の変化を自覚しながら自らの健康保持に取り組むとともに、健康診断の受診結果をセンターに報告することにより健康の保持、持続を意識させ、安全就業の促進を図った。

(6) 今回の表彰を受け、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指して取り組んでまいります。

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 747人 (男性 468人、女性 279人)
- ② 粗入会率 1.4%
- ③ 就業率 68.9%
- ④ 就業実人員 515人 (請負・委任 462人、派遣事業 117人)
- ⑤ 就業延人員 52,272人 (請負・委任 42,998人、派遣事業 9,274人)
- ⑥ 契約金額 2億1,947万円 (請負・委任 1億8,200万円、派遣事業 3,747万円)

安全就業の取組

「事故ゼロ」を目標に、会員6名、職員2名からなる現場主体の安全委員会を設置し、安全就業対策を効果的かつ着実に実施するとともに、センター会員の安全意識の高揚のための啓発活動を行っています。

○三者面談の開催

毎年、75歳以上の全会員を対象に「三者面談」を開催しています。面談者は、適正就業委員長・副委員長・事務局長・理事長の4名で、面談内容は、①来年度も就業を続ける意欲、体力はどうか。②健康診断を受診し体調管理はできているか。③家庭環境等々、アンケートで事前に記入して頂いた内容に基づき面談を通して会員一人ひとりの状態を確認しています。

令和2年度の面談者は100名で、これは全会員の約半数に及び、約1週間かけて実施しました。

○安全パトロール

安全パトロールは、毎年、安全委員会委員1名、職員1名の2名体制で実施しています。令和2年度は、2人1組の4班体制で計19回の安全パトロールを実施しました。

○安全講習会の実施(安心して就業できるための独自の講習会)

毎年、運転業務の安全対策として、運転業務従事会員を対象に町役場・警察と協力して高齢者ドライビングコンテストに参加しています(令和2年度はコロナ禍で未実施)。機械除草・植木剪定作業についても、毎年、現場作業を実施しながら安全対策を兼ねた講習会を行っています。

○安全標語の募集

毎年、会員から安全標語を募集、優秀作品を選出し、安全就業大会で表彰を行っています。また、安全委員の提案により受賞作品を配分金明細書の備考欄に表示し、安全就業を喚起しています。

○安全保護具等の使用奨励と点検整備の徹底

安全保護具の着用ならびに、用具や車の使用前、使用後の点検を徹底しています。

○今回の表彰を受け、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指して取り組んでまいります。

《事務局長 八尋 正記 記》



安全就業委員長の挨拶
(於：令和2年度安全就業促進大会)

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 175人 (男性 124人、女性 51人)
- ② 粗入会率 1.9%
- ③ 就業率 100.0%
- ④ 就業実人員 190人 (請負・委任 181人、派遣事業 13人)
- ⑤ 就業延人員 24,709人 (請負・委任 23,857人、派遣事業 852人)
- ⑥ 契約金額 1億364万円 (請負・委任 1億28万円、派遣事業 336万円)

1 天童市の概要

天童市は、山形県の中央東部に位置し、人口は約6万2千人、面積は113.01㎢と小さな街です。山形市、東根市、寒河江市、河北町、中山町と隣接しております。東南に蔵王連峰、西に月山と自然に恵まれております。天童温泉のいで湯とサクランボやラ・フランスをはじめとする風味豊かなフルーツ、そして将棋駒は日本一の生産量を誇る、自然豊かな街です。

2 安全就業の取組み

(1) 安全・適正就業委員会

年4回開催 構成人数8名(理事2名、会員5名、事務局1名)

安全・適正就業事業計画、事故報告と対策検討、安全標語の審査、安全だよりチラシの発行等行っています。

(2) 安全パトロール

月1回開催 (※7月は安全就業強化月間のため2回開催)

安全委員が3班に分かれて各月ごと1班ずつ巡回パトロールを実施しております。主に、草取り、草刈り、植木剪定、屋内清掃の就業現場を重点的に巡回し、作業時の服装や用具の確認、熱中症対策の重要性など指導し事故防止に努めています。

(3) 安全標語の募集

県シ連が行っている安全標語の募集を全会員に周知し、募った作品を県シ連に応募しています。また、当センター独自賞として「優秀作品賞」を選定し、選ばれた10作品を表彰するなど、安全意識の高揚に努めています。

(4) 事故防止用具の推奨

刈払機による賠償事故観点から、飛石防止策として飛散防止ネットの使用、飛石軽減のチップソー及びバリカン式アタッチメントの使用を推奨しています。状況に応じてカラーコーンの設置や蛍光色ビブスを着用し、車や通行人への注意喚起に努めています。また、蜂スプレーを事務局で準備し、除草や植木剪定作業など屋外作業に携わる会員には常備させています。

(5) 熱中症対策

炎天下の作業はなるべく控えたいため、屋外作業(除草・植木剪定)については、その日の気温により7月から8月にかけて就業時間を午前中のみでの半日就業を推進しています。

(6) 就業途上における交通事故防止

市の交通指導員による交通安全講習の実施や、県警や県シ連作成の交通安全チラシ等を全会員に配布し呼びかけています。

これからも会員及び役職員が一丸となり「安全は、すべてに優先する」スローガンを基に、事故ゼロを目指し安全対策に取り組んでいきたいと思ひます。

《事務局業務係長 柴田 哲也 記》



安全パトロール(草取り作業)

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 505人(男性 331人、女性 174人)
- ② 粗入会率 2.2%
- ③ 就業率 86.7%
- ④ 就業実人員 438人(請負・委任 424人、派遣事業 30人)
- ⑤ 就業延人員 56,698人(請負・委任 53,867人、派遣事業 2,831人)
- ⑥ 契約金額 1億9,513万円(請負・委任 1億8,265万円、派遣事業 1,248万円)

1 那須塩原市概要

那須塩原市は、首都圏から約 150 キロメートルの栃木県の北部に位置しています。

市内を国道、東北自動車道、東北本線、東北新幹線の主要交通が縦貫し、アクセスの良さから、塩原温泉郷をはじめ、多くの観光施設や工業団地を有する市です。また、日本遺産にも指定となった明治期の大規模華族農場のひとつ「千本松牧場」や「旧青木家那須別邸」、「松方別邸」など森閑の中に佇む洋風の別荘からは、那須塩原(那須野が原)開拓の余韻を感じることができ、「人々の活気」と「自然の静寂」を共に体験することができる地域です。

2 安全就業の取組み

(1) 安全・適正就業委員会及び地区安全対策委員会の開催

理事及び会員の中から、安全・適正就業委員 9 名、地区安全対策員 20 名(うち 9 名が安全・適正就業委員と兼務)を選出し、委員会を年 3 回開催しています。委員会では主に、前年度並びに委員会開催時点までの事故報告(事故検証や再発防止策の検討)、後述する巡回指導の報告や講習会に関する報告などを行います。

(2) 安全・適正就業巡回指導の実施

7 月～10 月に安全・適正就業委員及び地区安全対策員による巡回指導を実施しております。(前年度 15 回実施)

委員 2 名で直接就業先に出向き、就業時の服装や装備、健康状態、安全の配慮等について専用のチェックシートを用いチェックを行い、前述の委員会で報告を行います。なお、チェックした項目の中で「否」とした項目については当日中に事務局担当職員及び職群班班長と情報共有し、随時改善を行っております。

(3) 事業部会による安全就業パトロール

(2)とは別に、当センター事業部会員(理事) 8 名による安全パトロールを実施しております。(前年度 7 回実施)

(4) 講習会の実施

安全・適正就業を推進し、事故の減少と健康増進を図るため、就業関係講習会(刈払機講習会、植木剪定講習会、接遇マナー講習会)や健康講話を開催しております。

(5) 安全装備の使用

作業看板やカラーコーン、石飛防止用のネットを現場に合わせて適宜使用しています。また、前年度よりカルマーを試験導入しました。

(6) その他の活動

会報や総会資料等を通して、事故防止と安全に関する啓発活動を行っております。

この度は栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。これはひとえに、これまで安全就業の奨励に携わってきた会員皆さんの、奮励努力の結果が評価されたものと思います。今後も会員・役職員が一丸となって事故ゼロを目標に活動を続けて参ります。

《業務課業務係 主任 赤荻 大輔 記》



センターの概要 (令和 2 年度)

- ① 会員数 685 人 (男性 491 人、女性 194 人) ② 粗入会率 1.7% ③ 就業率 78.8%
- ④ 就業実人員 540 人 (請負・委任 540 人、派遣事業 50 人)
- ⑤ 就業延人員 67,548 人 (請負・委任 63,915 人、派遣事業 3,633 人)
- ⑥ 契約金額 3 億 9,778 万円 (請負・委任 3 億 7,434 万円、派遣事業 2,344 万円)

1. 東庄町の紹介

東庄町は、千葉県の北東部に位置し、東京からは80キロ圏、成田からは30キロ圏にあり、面積は46.25平方キロメートルです。低地は水田、台地は畑作地帯、丘陵地は森林地帯となっており、北側を利根川が流れています。気候は温暖で、平均気温は約16度、冬の間は東京に比べて2～3度暖かく、夏は逆に涼しい土地柄です。

東庄町シルバー人材センターは、平成14年2月に任意団体として発足し、平成27年7月に一般社団法人に法人化しました。会員数は、年々増加しており、特に女性の入会も多く、約4割が女性会員となっています。

2. 安全就業の取組

今年度の目標は、【重篤事故ゼロ、その他の事故前年度比15%減】です。重篤事故のみならず、傷害事故・賠償事故ゼロを目指して、安全・適正就業委員会の委員を中心に、以下の通り計画しています。

(1) 安全・適正就業委員会

- ・ 構成人数 11名（理事3名、会員5名、事務局3名）
- ※会員に関しては職群毎に選出
- ・ 年3回実施（7月、10月、2月）
- ・ 安全・適正就業推進計画、途上事故防止計画の策定
- ※委員を中心としたパトロールの実施（年8回を予定）
- ・ 事件事例の報告と対策

(2) 適正就業自主点検

- ・ 1月中旬以降に、契約書及び就業実態について見直しを行い、必要に応じて契約形態の変更を行う。

(3) 安全・適正就業に関する情報の提供

- ・ 傷害、賠償事故の報告
- ・ 会員だよりへの記事掲載、安全情報の提供（年4回）
- ・ 関係団体からの情報取得と提供

(4) 交通安全運動への参加（年4回）

写真↓（交通安全・健康講話の様子）



このたびは、安全就業優良賞を賜りありがとうございました。これからも、お客様がご利用しやすく、また、会員が安心して就業できる環境を作るため、会員・役職員で、より一層力を合わせて、安全・適正就業に努めてまいります。

≪ 常務理事兼事務局長 高木 浩一 記 ≫

センターの概要（令和2年度）

- ① 会員数 166人（男性 101人、女性 65人）
- ② 粗入会率 2.7%
- ③ 就業率 70.5%
- ④ 就業実人員 117人（請負・委任 93人、派遣事業 46人）
- ⑤ 就業延人員 11,914人（請負・委任 7,333人、派遣事業 4,581人）
- ⑥ 契約金額 6,441万円（請負・委任 4,071万円、派遣事業 2,370万円）

1 十日町地域の概要

十日町地域は新潟県の南寄りに位置し、当センターは十日町市と津南町の1市1町を対象にしています。東側と西側に山々があり、妻有盆地という盆地を形作っています。その盆地の中央部を日本一長い川信濃川が流れています。「大地の芸術祭開催地域」「豪雪地」としても知られている地域です。

2 安全就業への取り組み

当センターは設立以来、一貫して「安全なくして就業なし」を就業の基本に据え、地域に根差した就業を実施しています。毎年7月に安全大会(安全適正就業研修会)を実施し、300人以上の会員から参加をいただいています。また、当センター90班の全会員を対象に27か所で班別研修会を実施し、安全就業、健康管理、適切な事故対応への周知を図ってきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止しました。

3 コロナ禍での取り組み

- 安全就業対策委員会は、理事6名、会員6名、職員5名から構成され、年3回の会議において、季節ごとの安全就業への具体的な取り組み方法や啓発方法について検討しています。
- 安全パトロールは、安全就業対策委員2～3名と職員1～2名で年間15回実施しています。
- 安全講習会は、特に降雪・山間地であることから「雪囲い講習会」及び「除雪安全講習会」は、作業従事会員が集まりやすいよう5会場に分けて開催しています。「刈払い機安全講習会」は、作業に従事する会員が多いことから開催を見送り、「刈払い機使用に関する注意喚起文書」を対象会員に送付することで対応しました。
- シルバー体操を図案化し全会員に配布しました。作業前のミーティング時に体操を実施しています。
- 会員入会者には安全就業ハンドブックを無償配布し、注意喚起を行うとともに、作業現場には必ず携帯するように促しています。
- これらの安全対策の実践で、ここ数年間は大きな傷害事故や損害賠償事故ともに発生していませんが、今回の表彰を受け、今後も更なる徹底を図ってまいります。



《事務局長 水落 久夫 記》

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 1,144人 (男性 757人、女性 387人) ② 粗入会率 4.0% ③ 就業率 84.3%
- ④ 就業実人員 964人 (請負・委任 919人、派遣事業 101人)
- ⑤ 就業延人員 90,390人 (請負・委任 77,326人、派遣事業 13,064人)
- ⑥ 契約金額 4億1,123万円 (請負・委任 3億4,834万円、派遣事業 6,289万円)

安全就業の取組み

会員の就業に係わる事故防止及び適正就業について、必要な事項を策定し推進することを目的として、安全・適正就業推進委員会が設置されました。理事2名、会員4名の計6名の委員で構成され、担当職員2名を配置しています。

年間3～4回の委員会を開催し「事故0」を目標に掲げ、安全就業の徹底、事故防止対策を図り、会員が安全・安心をして就業できるよう努めています。令和2年度の事故発生状況は、傷害事故6件、賠償事故8件の計14件で、令和元年度より1件増加しました。

安全パトロールの実施

安全・適正就業推進委員を2班に分け、冬期間を除き毎月1回、庭木関係と機械刈り除草を中心に安全パトロールを実施しました。パトロールにより安全就業及び事故防止対策の徹底、指導。会員の安全意識改善のため労いながら啓発活動を行っています。



安全講習会の実施

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため講習会等中止をしましたが、例年、救急法講習会、安全運転講習会、庭木・草刈り班の安全研修等を実施しています。

①救急法講習会では、AEDを設置している施設で就業する会員を対象に実施しています。

②安全運転講習会は、春・秋の全国交通安全週間に合わせ五泉中央自動車学校様のご協力のもと、実車による運転技能講習や認知症テストなどを行い、会員が安全運転に対し再認識をもらう良い機会となっています。

③庭木・草刈り班の安全研修では、安全就業の徹底やKYミーティング等を行っています。庭木班の班長は剪定・冬囲いシーズン中に毎週作業打合せを行い、事故発生状況を報告し再発防止策等を検討しています。

今回の表彰を受け、今後も更なる安全就業の徹底を図り、「事故0」を目標に、会員が安全・安心をして就業できるよう取り組んでまいります。

センターの概要(令和2年度)

- ① 会員数 651人(男性 443人、女性 208人) ② 祖入会率 3.1% ③ 就業率 81.4%
- ④ 就業実人員 530人(請負・委任 445人、派遣事業 143人)
- ⑤ 就業延人員 66,701人(請負・委任 54,904人、派遣事業 11,797人)
- ⑥ 契約金額 3億3,836万円(請負・委任 2億6,103万円、派遣事業 7,733万円)

安全就業の取組

会員 14 名で安全委員会を構成しており、年 3 回程度の会議を開催し、安全就業対策を効果的かつ着実に実施し、センター会員の安全意識の高揚を図る啓発活動を行っています。令和 2 年度の事故発生状況は、傷害事故 4 件、賠償事故 7 件、その他事故 1 件の計 12 件で、令和元年度より 2 件減少しました。

安全パトロールの実施

例年、安全適正就業強化月間である 7 月に安全パトロールを実施していましたが、会員が就業するにあたり「安全はすべてに優先する」ことから、年間を通じて複数回実施することにしました。特に職群班に対しては、作業の準備から実施方法等について意見交換をするなど会員自らが危険を察知して身を守ることが重要であることを意識付けしていくこととしています。

安全講習会の開催

傷害事故や賠償事故の減少を図るため、剪定班・草刈班を対象にして、シーズン前に安全講習会を開催しています。また新規入会者はもちろんですが、最近事故が発生したことを受け、学校校務士、体育施設管理の会員向けにも刈払機取扱作業安全衛生教育を開催したところです。同じく運転業務の安全対策は、定期的に運転業務従事会員を対象に安全運転講習会を実施しています。

安全用具の使用奨励と点検整備の徹底

安全防具や用具類の着用を呼びかけており、作業班で共有する安全確保に必要な用具類については、更新時期にセンターで準備し貸与する等を行っています。

熱中症対策

夏の猛暑で体調を崩す会員もおり、十分な休憩と水分補給を呼びかけていますが、万一に備えて熱中症対策応急キットを外作業に従事する各班に配布しました。

事故後の対応

やむなく事故が発生した場合は、安全委員会委員が現場責任者と事故当事者から状況を聞き取り、事故原因を明確にした上で対応策を意見交換により見出していくことに変更しました。

○今回の表彰を受け、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指して取り組んでまいります。



《事務局長 喜多 邦夫 記》

センターの概要 (令和 2 年度)

- ① 会員数 432 人 (男性 260 人、女性 172 人)
- ② 粗入会率 2.8%
- ③ 就業率 91.4%
- ④ 就業実人員 395 人 (請負・委任 339 人、派遣事業 108 人)
- ⑤ 就業延人員 48,013 人 (請負・委任 34,415 人、派遣事業 13,598 人)
- ⑥ 契約金額 1 億 8,138 万円 (請負・委任 1 億 2,755 万円、派遣事業 5,383 万円)

静岡県の中東部を南アルプスから駿河湾へと流れる大井川。吉田町は、その大井川河口部西岸に位置し、東の空に雄大な富士を仰ぎ、緑の光陽眩しい磯の香り漂う自然豊かな町です。

そのような町にあって当センターは、平成3年11月に設立されました。翌年5月の第2回定時総会においては、早々に会員の健康維持と安全就業推進を目的に安全会(当時呼称)の組織と運営の確立を宣言されました。以来一貫して会員の健康と安全就業への指導と助言を繰り返すことにより恒久的な事故ゼロと適正就業を目指しております。

1 安全就業委員会の活動とその取り組み

委員会の構成は、担当理事2名、会員代表として就業先職群別に5名、担当職員1名の計8名で構成されており、その活動は年間6回の委員会の開催と2回の安全パトロールの実施並びにガイドラインの徹底を図るべく恒常的に上限を超えての就業者への改善通知また全国の安全就業の様子を知らせるとともに重篤事故に関しては、速報として発信し常に安全な就業の喚起に努めている。

2 作業別安全・適正就業基準の遵守

全ての会員が安全に就業できることを目的に、就業をする上で遵守すべき事項を定めた「作業別安全・適正就業基準書」を全会員に配布し作業を標準化することにより、一層の安全効果を高めている。また、健康管理の徹底にも努め疾病後の会員に対しては、就業復帰へ医師による就業承諾(診断書)を求めるとともに就業規約を大きく逸脱した会員には自省を求め、それぞれの該当事項を遵守すべき誓約書の提出を義務付けたうえで個別指導を行っている。

3 安全就業パトロールによる指導と就業先に対する改善依頼

年間2回にわたる安全パトロールの実施。それぞれの委員は、就業別チェックシートへの目視による作業評価と改善が必要と思われる事項とその対策を記載、委員会にて検討、その結果を踏まえ職群班班長と個人への指導を行っている。また安全確保の欠如が見受けられる就業先に対しても紙面による改善依頼と改善案を先に送付、その後、職制上責任者との協議の場をお願いしている。



4 安全合同研修会の実施

最大の目的は、心身共に健康で安全に就業するために何を心掛けるか！を考えてもらう場を設けることにより、それぞれの事故に対する予知対処方法を全員で共有することにより、いまだ終息の気配が見えない新型コロナウイルス感染症への対応の中で、より安全な就業の追求を目指す。

《事務局長 大石 邦貴 記》

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 271人 (男性 155人、女性 116人)
- ② 粗入会率 2.9%
- ③ 就業率 89.3%
- ④ 就業実人員 242人 (請負・委任 228人、派遣事業 14人)
- ⑤ 就業延人員 32,658人 (請負・委任 31,165人、派遣事業 1,493人)
- ⑥ 契約金額 1億4,929万円 (請負・委任 1億3,756万円、派遣事業 1,173万円)

1 東郷町の概要

東郷町は愛知県の名古屋市と豊田市の間に位置する住宅の街であり、町の北部には愛知 池があり愛知用水の調整池としての機能と毎年レガッタ大会を開催しているボートの街としても知られています。

また、春のゴールデンウィークに開催されます「中日クラウンズゴルフ大会」で賑わいを見せ、町の中心核の区画整理も進み、商業施設として令和2年には「ららぽーと愛知東郷」もオープンし、住みやすい子育て支援の街をアピールしているところです。

2 安全就業の取組み

(1) 安全・適正就業委員会、安全パトロール

委員会で作成した安全・適正就業基本計画に基づき、毎年活動計画を立て巡回パトロールを中心に「安全はすべてに優先する」を徹底するため活動を行っています。

安全・適正就業強化月間を始め年4回巡回パトロールを実施し、結果により安全対策を検討します。事故があった場合には発生原因を徹底分析して、危険個所や注意点を広く会員に周知しますが、事故がない時にこそ会員から「ヒヤリハット事例」を集め危険予知を各自でおこなってもらうよう声掛けをします。令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため通常は委員全員でのパトロールを推進員、委員、事務局の3名で密を避けながら計6回実施しました。現場を見に来てくれると就業会員に喜んでもらえるパトロールを目指しています。夏場には現場出勤時や事務所に寄られる会員に対して塩飴を配布し、熱中症予防の呼びかけをしています。

(2) 講習会の実施

毎年、技能講習として剪定講習会、草刈り講習会を実施しておりますが、そのカリキュラムに作業中の安全対策、熱中症対策や蜂対策などの安全講習を併せて行っています。高齢者の運転事故防止のため自動車学校での安全運転講習を実施し会員の安全意識の向上にも努め、また消防署職員による救急救命訓練を緊急時の対処法を身に付けていただくために実施しています。令和2年度については新型コロナウイルス感染拡大防止のため外部からの講師等による講習会等は中止となりました。

(3) 安全意識の向上対策

安全就業委員会の企画として、ヘルメット着用が必要な会員に対して対応期限となったタイミングに合わせて集合をかけ、「新安全ヘルメット貸与式」として安全・適正就業委員長からヘルメットを渡し会員の安全意識の向上対策について工夫をしています。



この度の表彰を受け一層身を引き締めながら、今後も安全就業に努め、事故ゼロを目指してまいります。

《事務局長(安全推進員) 野々山 美春 記》

センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 257人 (男性 166人、女性 91人) ② 粗入会率 2.2% ③ 就業率 80.5%
- ④ 就業実人員 207人 (請負・委任 207人、派遣事業 21人)
- ⑤ 就業延人員 20,582人 (請負・委任 18,833人、派遣事業 1,749人)
- ⑥ 契約金額 9,786万円 (請負・委任 8,732万円、派遣事業 1,054万円)

1. 桑名市の概要

桑名市は三重県北部、揖斐・長良・木曾の三川が注ぐ伊勢湾最北部に位置しています。西に鈴鹿山脈、北に養老山地の山並み、東に濃尾平野が広がる、水と緑に囲まれた自然豊かな環境のもと、江戸時代から東海道 42 番目の宿場町として栄え、現在は名古屋圏のベッドタウンとして大規模団地を有しながら、機械、金属系を中心とした工業都市と、長島温泉や多度大社など観光都市の側面を併せ持ちます。

2. 安全就業の取組

(1)安全就業委員会の開催

センター会員の健康と就業上の安全に関する事項を検討し、その対策を推進するために安全就業委員会を設置しています。委員会は理事 3 名、会員 6 名で構成され、年 5 回開催しています。

(2)安全パトロールの実施

事故の撲滅を目指して、委員により 8 月から 12 月にかけて月 1 回、計 5 回、主に剪定作業現場、草刈作業現場及び事故発生現場を対象にパトロールを実施しています。また、安全・適正就業強化月間の 7 月にも委員及び職員により 3 つの班に分かれてパトロールを実施しています。パトロールではチェックリストにより作業状況を評価し、指摘事項を作業員へ伝えています。

(3)安全研修会の開催

令和 2 年度は 12 月に人数を絞って 2 回に分けて「高齢者の感染症予防について」「高齢者の交通安全活動」をテーマに市の保健師、桑名警察署の警察官の方を講師に実施しました。その他にも熱中症研修会、自動車安全運転講習会を計画していましたが、新型コロナウイルスの影響により中止しました。

(4)草刈作業員会議の開催

近年、草刈り作業において飛石による事故が多発していることから、草刈り作業に就業している会員の代表による会議を開催し、事故の情報を共有するとともに飛石対策、安全作業マニュアル・安全作業チェックリストの作成、防護ネットの配布などを協議しました。

(5)安全かわら版の発行

会員の健康増進に向けた情報提供や会員の安全就業に向けた情報提供を目的に安全かわら版を発行しています。令和 2 年度は 4 回発行し、新型コロナウイルス感染症対策情報、事故発生状況、交通安全の啓発情報、ヒヤリハット体験事例などを掲載しました。

(6)無事故・無違反チャレンジ123への参加

会員の安全運転への取組として県、県警などが主催する「無事故・無違反チャレンジ 123」に参加しています。3 名でチームを組み、7 月 1 日から 10 月 31 日までの 123 日間、無事故・無違反を目指すものです。令和 2 年度は 28 組 84 人が参加し、ほぼ全員が達成しました。

(7)各種マニュアルの作成

安全就業委員会において、新型コロナウイルス感染症対策マニュアル、草刈り作業の安全マニュアル、飛石事故の対策マニュアルを作成し、会員への周知を図りました。



今回の表彰を受け、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故の撲滅を目指して取り組んでまいります。

《事務局長 高木 守 記》

センターの概要（令和 2 年度）

- ① 会員数 990 人（男性 694 人、女性 296 人）
- ② 粗入会率 2.2%
- ③ 就業率 83.1%
- ④ 就業実人員 823 人（請負・委任 652 人、派遣事業 247 人）
- ⑤ 就業延人員 107,600 人（請負・委任 76,883 人、派遣事業 30,717 人）
- ⑥ 契約金額 5 億 3,047 万円（請負・委任 3 億 7,370 万円、派遣事業 1 億 5,677 万円）

1 鳴門市の概要

鳴門市は徳島県の北東部で東四国の玄関に位置し、人口5万7千人、面積135.66km²です。鳴門海峡に逆巻く渦潮や瀬戸内海国立公園の風光明媚な景観、「金時」、「わかめ」、「鯛」、「レンコン」などの産品や阿波踊り、ベートーベン第九初演の地などの文化資源に恵まれた市であります。

2 安全就労の取り組み

理事5名（会員4名）、職員2名からなる安全委員会を設置しており、年3回程度の会議を開催し、就業に対して効果的な安全対策を協議することにより、センター会員の安全意識を高め事故防止を図っています。令和2年度の事故発生状況は賠償事故1件でした。

○ペナルティ制度導入や安全パトロールによる安全意識の向上

会員の注意力や賠償責任の欠如による事故多発を受け、全国的に取り組まれているペナルティ制度を平成24年度より導入いたしました。個人負担額は賠償額5万円以上について一律5万円負担としました。このことにより、会員による賠償事故には自己責任の痛みを伴うこととなり、また季節毎や業種別毎の作業現場へのパトロールの場でも安全意識を徹底させることにより、事故件数は大幅に減少しました。



○安全講習会の実施

ボランティア活動（剪定・草刈り・除草等）などを定期的の実施しており、それに合わせて安全講習を実施し、会員相互での安全体制のチェックや意識の向上を図っています。

○会員互助会での安全就労の徹底

会員互助会の役員会や親睦旅行での会員相互の連帯感を高めながら就業に対する安全意識を高めた。

○今回の表彰を受け、今後も更なる安全就労の徹底を図り、事故0を目指して取り組んでまいります。

《事務局長 青木 利治 記》

センターの概要（令和2年度）

- ① 会員数 144人（男性 99人、女性 45人）
- ② 粗入会率 0.6%
- ③ 就業率 88.4%
- ④ 就業実人員 122人（請負・委任 122人、派遣事業 29人）
- ⑤ 就業延人員 19,065人（請負・委任 15,404人、派遣事業 3,661人）
- ⑥ 契約金額 1億0456万円（請負・委任 8,262万円、派遣事業 2,194万円）

1. 筑前町の概要

筑前町は、平成17年3月22日に旧三輪町と旧夜須町の合併により誕生し、福岡県の中南部、筑紫平野の北部に位置する町です。面積は約67㎏、人口約3万人、高齢化率30.5%です。米・麦・大豆を基幹産業としており、福岡都市圏や久留米広域圏に隣接していることから住宅団地の開発が進み、人口も微増傾向です。平成23年10月に食を通して健康と活力を高めるため、「ちくぜん食の都づくり宣言」をしました。特産品は、筑前クロダマル(大豆)・筑前麦太郎(小麦粉)・きず(木酢)など数多くあります。

2. 安全就業の取り組み

(1)安全・適正就業委員会の構成

理事2名、安全・適正就業推進員1名(職員)、会員8名の計11名の構成です。正・副委員長を互選し、年4回の会議を開催します。4月の第1回会議で、年間の基本方針や事故防止の主要施策を作成し、理事会・職群班長・会員への周知を図っています。

(2)安全就業パトロール

4月～12月の期間に、理事会と安全・適正就業委員会で各2名1組での抜き打ちで現地パトロールを年18回行います。1回あたり3～4か所を巡回し、安全指導報告書を基にチェックします。巡回後はセンターで報告会を行い、指摘事項等あれば職群班長会で報告します。令和2年度の現地巡回は、剪定・草刈り・除草合計68か所でした。

(3)安全・適正就業大会の開催

7月の「安全・適正就業強化月間」に併せて大会を開催しますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため11月に延期し、参加人数も60名程度で小規模での開催としました。①高齢者の交通事故防止(警察署交通課)②健康体操(健康運動指導士)を恒例のテーマとしています。大会で会員の安全意識の向上を図るため「安全就業宣言」の採択を行います。

(4)安全標語の募集

2月に次年度の安全標語募集を全会員に周知するため応募用紙を配付します。令和2年度は18作品の応募数があり、理事会・職群班長会・安全委員会等による投票で上位2作品を選び、安全・適正就業大会で表彰します。

(5)職員による就業先の安全確認の励行

職員による日常的な就業現場の安全確認を地道に継続して実施しています。職群班長やリーダーとの連携で、安全・安心な就業環境づくりをめざしています。

(6)安全就業の情報発信

会員向けの情報発信源として、事務局だよりを年8回程度発行します。事務局だよりの1頁を安全・適正就業委員会だよりとして活用し、①センター内事故報告②重篤事故報告(全シ協)③安全パト状況④安全就業宣言の周知⑤熱中症予防対策⑦健康情報などを届けています。

今後も、事業推進計画に掲げる「事故ゼロ」をめざし随時、対策を講じていきます。

《事務局長 倉地 善一 記》



センターの概要 (令和2年度)

- ① 会員数 266人 (男性 176人、女性 90人)
- ② 粗入会率 2.4%
- ③ 就業率 92.1%
- ④ 就業実人員 245人 (請負・委任 222人、派遣事業 51人)
- ⑤ 就業延人員 30,869人 (請負・委任 26,847人、派遣事業 4,022人)
- ⑥ 契約金額 1億3,181万円 (請負・委任 1億349万円、派遣事業 2,832万円)

安全就業の取り組み

令和2年7月に、それまで安全委員会、適正就業推進委員会と分かれて活動してきた委員会を統合し、「安全・適正就業推進委員会」としました。委員会の構成は理事2名、剪定班と草刈班の班長3名、安全就業推進員1名（事務局長）、事務局職員1名の計7名で、年4回会議を開催しています。事故の状況としましては、傷害事故は平成30年9月の事故を最後に現在まで発生していませんが、賠償事故については令和元年度、令和2年度と2年連続で草刈りによる石飛ばし事故が2件発生しており、防護ネットの適正な使用等、事故防止について検討を続けています。

○夏季特別安全パトロールの実施

通常的安全・適正就業委員会による安全パトロールに加え、7月・8月には全理事による夏季特別安全パトロールを実施しています。会員の就業状況について役職員と一緒に安全確認を行い、会員に安全就業徹底の声かけをするとともに、発注者に対して、熱中症対策のための時短就業等会員の安全就業への協力を要請しています。

○10年無事故会員の表彰

センター設立11年目となった平成27年度、10周年記念事業の一環として10年無事故会員の表彰を始めました。7月開催の安全就業促進大会において、安全標語の優秀作品とともに表彰式を行い、安全ニュースへの受賞者全員の顔写真掲載、8月には町内全戸配付するシルバー広報「すずなり」に氏名と表彰式の写真を掲載して、10年間事故なく就業されてきたことをお祝いします。今年度の受賞者は10名。「私は来年度表彰してもらえるかな」と会員の皆さんもひそかに？関心を持たれており、こういった会員一人一人の安全に対する意識の向上が、今回の受賞につながったものと思っています。

○仕事別打ち合わせ会の実施

2月から3月にかけては、剪定班や草刈班、庁舎管理グループ等、就業グループごとに会議を開き、次年度の就業内容の確認はもちろん、それぞれの就業の場で危険な作業はないか、就業会員が意見を出し合い、安全対策につなげています。

○会員200人の小さなセンターです。この受賞に際して、連合会の方から「大木町のいいところはコミュニケーションがよくとれているところ」というお褒めの言葉をいただきました。今後も会員、役職員が気づいたことを伝えあい、声かけあいながら、事故ゼロを目指して安全就業に取り組んでいきたいと思えます。



今年度は会員の健康増進事業として、町健康福祉課と共同で「ケア・トランポリン教室」を開催します。

《事務局長 猿渡 知子 記》

センターの概要（令和2年度）

- ① 会員数 201人（男性 146人、女性 55人）
- ② 粗入会率 4.1%
- ③ 就業率 90.0%
- ④ 就業実人員 181人（請負・委任 172人、派遣事業 53人）
- ⑤ 就業延人員 22,386人（請負・委任 18,268人 派遣事業 4,118人）
- ⑥ 契約金額 1億681万円（請負・委任 8,409万円 派遣事業 2,272万円）

1. 天草市の紹介

天草市は、県の南西部に位置し、周囲を海に囲まれた自然豊かで、県内最大の面積を誇っております。産業は、豊かな水産資源を活かした魚業と温暖な気候による農業が主であります。また、2018年にはユネスコ世界文化遺産として『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』に登録されるなど南蛮文化やキリシタンの歴史が未だに残る文化の町でもあります。

2. 安全就業の取組

安全・適正就業委員会（以下「委員会」という。）は、理事2名、会員7名、職員3名で構成されており、年3回の会議を開催し、事故の分析、事故防止対策、安全パトロールの方法及び会員への周知徹底等について協議を行っております。

このような状況のなか、令和2年度においては傷害事故2件（通院9日）、賠償事故が3件発生しており、当センターにおける緊急課題は賠償事故の撲滅であります。

①事故の分析

なぜ今回の事故が発生したのか？ 要因となる事項を全て抽出する。

- ・打合せの有無 ・服装 ・機具点検の有無 ・適切な機具使用 ・無理な作業方法
- ・防護対策の有無 など

②事故防止対策

この事故を防ぐために有効な対策を検討するとともに、会員自らが「自分のこと」として考え、安全に対する意識の向上を図るためのチラシを作成し配付しております。

また、賠償事故に関する対策として、「小石を飛散させての事故が減少しない」更には「同じ会員が繰り返す事故を起こす」などの問題対策として、【安全特別研修会】を開催し ・機具の操作方法 ・県内(当センター)事故状況 ・安全ニュース紹介 ・危険予知訓練を盛り込んで、当該会員への再発防止に取り組むこととしております。

③安全パトロールの方法

これまでは、7月の安全強化月間に合わせて、事務局長、委員会委員及び職員で安全パトロールを実施していましたが、委員から抜き打ちによる実施要望があり、本年度より予告無しのパトロールを行い、日頃の就業状況を点検したいと考えております。



④会員への周知徹底等

地域班長と連携を図り、事故が多発した場合又は、熱中症等の季節に応じた対策が求められる場合に関して、速やかに全ての会員への周知が行えるよう協力をお願いすることで、情報の共有を図り、今後の安全に対する意識の向上に努めてまいります。

《事務局長 葛羽 幸雄 記》

センターの概要（令和2年度）

- ① 会員数 662人（男性 442人、女性 220人）
- ② 粗入会率 1.7%
- ③ 就業率 85.6%
- ④ 就業実人員 567人（請負・委任 550人、派遣事業 33人）
- ⑤ 就業延人員 60,693人（請負・委任 55,380人、派遣事業 5,313人）
- ⑥ 契約金額 3億4,556万円（請負・委任 3億1,595万円、派遣事業 2,961万円）

1 大分県シルバー人材センター連合会の概要

当連合会は、平成9年10月に設立され早25年目を迎えました。県内14シルバー人材センターが設置され、近年は高年齢者の雇用確保措置等の進展から、会員数は年々減少傾向にあったものの、各センターの普及啓発活動等の積極的な取り組みにより、平成29年度以降は、非常に厳しい状況にありながら4年連続して増加しています。

2 安全就業に係る主な取り組みをご紹介します。

- ① 県内シルバー人材センターの事務局長を構成メンバーとする「安全・適正就業推進委員会」を設置し、推進基本計画に基づく下記事項を連合会主催で毎年実施している。 ※推進委員会 10月開催
 - 県内 14 センターを3年計画で一巡するよう安全パトロールを実施している。
 - 県内の事故状況及びセンターごとの事故特性等を把握させるため、分析結果を事務局長会議等で情報提供し、会員等に周知徹底を図っている。
 - 「度数率」に基づく目標値を設定し、その達成度合で進捗状況等を把握させている。
 - 各センターの安全就業に係る支援事業として、安全就業の手引・パンフレット・のぼり・立て看板等を製作し、配布している。 ※今年度は「除草及び剪定作業中」の立て看板を配布した。
 - 連合会主催の研修会を計画的に開催している。 ※令和元年度 4 回開催、令和2年度 1 回開催〔新型コロナウイルスの感染拡大で2回中止〕、令和3年度1回開催済み〔今後2回開催予定である。〕
 - 上記研修会を受講した者に対して、研修受講者である自覚を持たせるため受講済みシール及び血型シールを交付している。 ※ヘルメットに貼付するため、ラミネート加工を行っている。
 - 安全標語の募集と表彰〔最優秀賞等選考〕 ・ 毎年700作品を超える応募がある。
 - 各センターが主催する安全就業に係る講演会等へ講師派遣〔令和2年度 2回派遣〕している。
 - 各センターが開催する安全研修会の支援事業として、各種 DVD を連合会で購入・整備し、貸出要綱に基づく貸し出しを行っている。 ※昨年度は、愛知県シルバー人材センター連合会が制作された DVD を借り受け、理事会や各センターが行う研修会等で上映を行う支援事業も行った。
 - 特異な事故や熱中症に係る警報等が発令された場合、注意喚起文書を適宜発出している。〔令和元年度 5回発出 ・ 令和2年度 8回発出 ・ 令和3年度 4回発出(途中)〕
- ② 連合会理事会の補完組織として、安全就業推進専門部会を設置している。 ※専門部会 3月開催
 - 理事会への提言事項等
 - 令和元年度 … 受注禁止業務の指標作成(危険な業務等を分かり易く写真等を取り入れて作成予定である。)
 - 令和2年度 … 安全就業に係るアンケート調査の実施と各種規程等の整備促進
 - 令和3年度は、規程等未整備のセンターがないように整備を図る。
 - 令和3年度 … 指標作成にあたっての先進地視察(県外のセンターを視察予定)



〔安全パトロール〕の様子

3 今後の目標について

今回の「安全就業センター優良連合賞」の受賞を励みに、各センターと協力しながら更なる安全就業に努め、傷害事故ゼロ・損害賠償事故ゼロを目標に、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

《 事業部 事業課長(兼)安全・適正就業推進課長 鈴木 道雄 記 》

大分県シルバー人材センター連合会の概要 (令和2年度)

- ① センター数 14 団体 (国庫補助 14 団体)
- ② 会員数 5,481 人 (男性 3,851 人、女性 1,630 人) ③ 粗入会率 1.2% ④ 就業率 82.3%
- ⑤ 就業実人員 4,512 人 (請負・委任 3,987 人、派遣事業 892 人)
- ⑥ 就業延人員 470,461 人 (請負・委任 379,211 人、派遣事業 91,250 人)
- ⑦ 契約金額 2 億 5,192 万円 (請負・委任 2 億 578 万円、派遣事業 4,614 万円)